



三島企業の考える 三島カルチャー

12



株式会社三光ダイカスト工業所 代表取締役 三宅ゆかり氏

プロフィール

沼津市生まれ三島市育ち。女子大を卒業後20年以上美容業界で活躍。趣味はメイクアップ・ファッション。創立者の父が亡くなり父の弟が2代目社長となるが難病になり2013年に3代目社長として急遽就任する。スチームパンクをテーマにしたプロジェクトで「ガイアの夜明け」をはじめ、各メディアに出演。

まだ見ぬ未来に向けて 創造力で「ものづくり」

——三光ダイカスト工業所はどんな会社ですか？

ダイカスト部品（溶かした金属を金型に入れて作る高精度の铸件）の専門メーカーです。金型の設計からダイカスト、機械加工までの一貫生産体制で、アルミや亜鉛を使った高品質の自動車機械部品などを製造しています。1964年に父が創業して私が3代目になります。

新事業のきっかけは 女性クリエイターの一言

——オリジナルブランド「三光スチーム」について教えてください

「スチームパンク」をテーマに、工場出た端材や廃材を利用したアクセサリーを制作しインターネット販売をしています。社員が衣装を着て出演する物語仕立ての動画やサイトを作り、スチームパンクファン向けのイベントに出展するなどの活動を行ってきました。スチームパンクとは蒸気機関がある時代をモデルにしたファンタジーの世界観を持つジャンルのひとつで、日本であれば大正デモクラシーの頃のイメージで、特に海外で人気があるそうです。工場見学に来た女性クリエイターたちの

一人に、「この工場はスチームパンクみたいな世界ですね」と言われたことがきっかけでした。初めは私も社員も皆「スチームパンク??」と全く知らないところからのスタートでした。

——本業と一見関係なさそうなプロジェクトを進めたのはなぜでしょう？

このプロジェクトを始めたのは、自分が会社を引き継ぎ、これからの社の方向性について模索していた時期でした。海外との競争が激しく、今までと同じことをしているだけではダメだという危機感を持ち、情報収集をする中で、三島に拠点を持つ女性起業家のシェアオフィス「コトリスラボ」との出会がありました。

私は会社を継ぐまで美容業界にいましたが、異業種の視点や女性の見解が改革のきっかけになるかもしれないという思いもあり、コトリスラボのクリエイターさんたちと一緒に始めたプロジェクトです。

創造性が良い

ものづくりにつながる

プロジェクトを進めていくことで、社員のモチベーションがとも上がりました。依頼通りのものを正確に作る事が目的の

通常業務と違い、このプロジェクトは、自分たちで資料を調べ、デザインを起し、世界観を作っていくという、創造的なものです。答えがないものを自分たちで考え作り上げていくというクリエイティブの力は、これから先がどうなっていくかわからないという状況を前向きに見ることが出来るのです。創造性を持ち、まだ見ぬ未来に向けて柔軟に仕事をする事で、良いものづくりにつながるのではないかと考えています。

——プロジェクトを進めてどんな変化がありましたか？

テレビや雑誌の取材が増え、多方面から注目していただくことで、問い合わせが増え、本業での受注増にもつながっています。今年は新卒の応募が複数ありました。これは、私たちのような地方の中小企業では異例のことです。

未来を担う人材に夢を与える会社になる

また、ホームページを見た東京の小学生の男の子が手製のスチームパンクイラストを送ってくれて、先日工場見学に来てくれました。これからの未来を担う若い人や子供が夢を持って来てくれるのは、本当に嬉しいことです。

展示会などでも声をかけていただけることが増えました。会社はこれまでにない多様な業種の方が訪れるようになり、会社案内をする機会も増え、社内の雰囲気もとても良くなりました。注目されているという意識を持つことで、自然とスタッフの表情も明るくなってきたのです。

異業種とのコラボレーションでは、浜松のルーアーカーと一緒にリールのハンドルを作りしました。これまでにない精巧な仕上げで評判も良く、海外からもたくさん注文をいただいています。

昨年秋には社内に三光スチームを紹介するショールームを手作りしました。背景のイラストは、高校生に描いてもらったものです。その他のものは、全て自分たちでデザインし、作りしました。

夜も稼働している2階の工場が一望できるホールと貸し会議室は、地域の皆さんに教室やミーティングなどに気軽に使ってもらえればと思っています。



スチームパンクの世界そのものと評された工場



社員手作りの衣装

「ものづくり」の三島を 世界へ発信

——三島の文化やまちづくりについてお聞かせください。

三島は今、全国から注目をされているように感じます。しかし、食やお土産は色々ありますが、ものづくりは県内でも静岡市や浜松市のイメージがまだ強いんです。2020年には東京オリンピック・パラリンピックもあり、さらに世界からの注目が高まると思うので、三島からも、ものづくりを発信したいですね。

これからは、オープンイノベーション（新技術・新製品の開発に際して、組織の枠組みを越え、広く知識・技術の結集を図ること）が大事だと考えています。人口減が進み、製造業にもロボットがどんどん使われるようになるでしょう。人

間がロボットに使われるようになる時代が来るかもしれません。そんな、どうなっていくのかわからない、世界の大きな流れに対して、中小企業は大企業に比べ動きが取りやすいとも言えます。「三光スチーム」のプロジェクトを通じて学んだ、創造性を持った仕事を通して、会社の順応性が高くなったように感じます。

三光スチームのプロジェクトもセカンドステージに入りました。我々のような、創業50年以上の企業が新しいことにチャレンジし、発信し続けることで、業界や地域にいい影響が出れば嬉しいです。

今後は、三島の他の企業のみならずとも手を取り合って、共に三島から世界にものづくりを発信し、社会や地域に貢献していきたいと考えています。



株式会社三光ダイカスト工業所

【本社】静岡県三島市松本 113-1

【ショールーム・工場】静岡県三島市安久 64

<http://diecasty.com>

<http://www.sankosteam.com>

三島企業の考える三島カルチャー」は、三島の文化応援プロジェクトが、三島周辺に拠点を置く企業や文化に関わる方々に、三島の文化についてインタビューするシリーズ企画です。配布場所／生涯学習センター、三島市民文化会館、市内文化施設等。詳しくは下記のWebサイトをご覧ください。

次回 三島市長 豊岡武士氏